

第17回 市民動物園会議

会 議 録

日 時 : 平成25年2月7日(木) 14時開会
場 所 : 円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（見上円山動物園長） それでは、ただいまから、第17回市民動物園会議を開催いたします。

まず、本日の会議の出欠でございますけれども、原田顧問と鈴木委員と橋本委員から、所用のために欠席というご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。

2. あいさつ

○事務局（見上円山動物園長） それでは、早速ですけれども、開会に当たりまして、みどり環境担当局長の二木からごあいさつを申し上げます。

○二木みどり環境担当局長 二木でございます。

本日は、お忙しい中を、そして、吹雪の中をお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

先ほど、アジアゾーンの裏側などを見ていただきました。昨年12月12日にわくわくアジアゾーンがオープンして以来、お客様から非常に好評をいただいて、12月、1月は、この5年間の入園者数の中で最高を記録したところでございます。

冬場も暖かくご覧になれる施設が完成しましたので、一層、皆さんに来ていただきたいということで、いろいろな場面でPRをさせていただきたいと思っております。また、3月の中旬か4月ぐらいには、ホッキョクグマの双子の赤ちゃんを公開できるのではないかと考えております。

そのほか、4月には、今、盛んに造成工事をやっております遊具広場「まるっば」が開業いたします。それも、動物の気持ちになって遊べるような遊具になっておりますので、これも皆さんに利用させていただきたいと思っております。

それから、連休ぐらいには、アジアゾーンのグランドオープンということで、もう少し大々的にPRをしたいと考えております。

今年こそ、何とか100万人を突破できるかなという皮算用ではありますが、しっかりと職員が一丸となって取り組みたいと思っております。

本日も、いろいろな忌憚のないご意見をいただきながら、会議を進めたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（見上円山動物園長） それでは、これ以降の会議の進行につきましては、金子委員長にお願いしたいと思っておりますので、金子委員長、どうぞよろしく願いいたします。

3. 議 事

○金子委員長 皆さんは1時から動物園内を回られたということですが、僕は、大学の用事があって、残念ながら行けませんでした。非常に残念な気持ちでいっぱいです。

それでは、早速、今日の会議を始めていきたいと思っております。

お手元に資料がございますけれども、今日は、次第にありますとおり、1から6までとかなり盛りだくさんの議事になっております。時間は4時までとなっておりますが、効率的に進められればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、早速、1の平成24年度来園者状況について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（見上円山動物園長） それでは、来園者状況について、私から説明させていただきます。

平成24年度表の左側に来園者数と前年度比ということで数字を書いております。こちらを見ていただきながら、説明させていただきたいと思います。

前回の会議で、10月までの状況につきましては一旦ご報告をさせていただいておりますので、11月以降ということでご説明させていただきます。

夏以降、回復傾向にありましたが、11月は、11月17日にちょうど雪が降りまして、雪の降り始めはかなり遅かったのですが、17日以降、寒い日が続き、早い根雪、積雪状態となりまして、子どもさんを中心に来園者数が減りまして、大幅な減となり、率にして68.4%となっておりますけれども、天候の影響がかなりあったと思います。

ただ、12月、1月を見ていただきますと、大きく伸びております。何と云っても、12月12日のわくわくアジアゾーンのオープンによる効果はかなり大きいと思っております。大幅に増えておりますが、1月の正月三が日は、昨年を引き続きまして無料入園を行ったところですが、そういった状況は同じであります、かなり早くからPRをさせていただいたり、巳年ということもありまして、蛇皮のプレゼントや、木から落ちない、また運がつくということで、レッサーパンダのフンペーパーでつくった合格祈願のしおりも配布しました。そんな効果もありまして、正月三が日につきましては、2万1,000人ほどの来園がございまして、昨年の倍という状況でございました。

1月4日以降も非常に好調でありまして、これはアジアゾーンの効果だと思っておりますけれども、リスタート以来というよりも、これまでの冬場では初めて5万人を超えたところですが。

表の平成22年度の2月を見ていただきますと、4万7,000人ほどの来園がありますけれども、これは、今やっておりますスノーフェスティバルの期間中、今回と同じように入園料無料で行ったところがございますが、今回も、雪まつり会場から円山動物園に何とか足を伸ばして来ていただけるようにということで、地味ではありますが、そんな仕掛けも行っておりまして、売店の話によりますと、大通から流れてきているのではないかとと思われるようなお客様も結構いらっしゃる聞いております。何とか、雪まつりのお客様がこちらに来ていただければと思っております。

また、3月でございますけれども、平成20年度の3月のところをご覧いただきますと、3万6,600人ほどということです。これは、ホッキョクグマの双子の公開があった月でございますが、今年も、先ほど局長からお話しさせていただきましたけれども、ホッキ

ヨクグマの双子の赤ちゃんが3月中旬、下旬ぐらいには、春休みに間に合うような形で公開できればと思っておりますので、今年の3月も同じようにたくさんの方にご来園いただければなど期待をしております。

来園者の状況につきましては、以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、来園者状況につきまして、ご質問等がございましたらお願いします。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 また最後にでもお気づきの点があればお願いしたいと思います。

それでは、2番の基本計画の公表について、説明をお願いいたします。

○事務局(見上円山動物園長) こちらも、私から説明させていただきます。

まず、資料2-1の1枚目の基本計画改訂案概要をご覧くださいながら、ご説明をさせていただきます。

まず、左上の基本計画の改訂についてというところをご覧くださいと思います。

皆さんご存じかと思いますが、基本構想、基本計画の構成について説明させていただきます。

平成19年3月に基本構想を策定しまして、その翌年、その実施計画ということで基本計画を策定しましたが、この基本計画は、平成19年度から28年度までの10年間の長期計画と5年間の短期計画で構成されており、今回は平成23年度までの前期計画が終了したということで、新たな後期の計画を策定したものです。

この基本計画につきましては、下の2段目の枠の左側に記載しておりますが、大きく三つに分類をしております。その右側に目を移していただきますと、太字で記載している九つの項目で構成されております。

今回の改訂に当たりましては、これまでの取り組みを検証する中で、項目ごとに課題や問題点を抽出しまして、それらの改善を図るための取り組み、さらには、社会経済環境の変化などを踏まえまして、九つの太字の項目ごとに新たな挑戦を設定し、さらに、新たに、成果指標を設定したところであります。

例えば、真ん中の二つ目の分野に円山動物園を特徴づけ際立たせる事業というところがありますけれども、ここでは、新たな挑戦ということで、寄附文化の醸成、感じる生物多様性、来園前からワクワク感といった新たな挑戦を掲げまして、動物のえさ代を寄附していただくアニマルファミリー制度を見直し、寄附のすそ野を広げるということ、また、市民参加による外来植物の駆除など、動物園の森を活用したイベントを通じまして、生物多様性の重要性を啓発すること、さらに、地下鉄駅からの案内サインの充実や、ワクワク感のあるようなラッピングシャトルバスの運行など、動物園につく前から、楽しみながら来園いただける仕掛けをすることを計画しているところです。

こういった取り組みによりまして、成果指標でございますけれども、アニマルファミリーの会員につきましては、市民の約1%に当たる2万人に増やしたいと考えております。

しゃるといふこと、それから、11月以降の円山動物園の来園者数でございますけれども、年度全体の15%という状況でありまして、100万人を目指すためには、やはり、冬期間の来園者をもっと増やすことも大事だということで、雪まつりなどで訪れる観光客に札幌の冬を楽しんでいただけるように、今回のスノーフェスティバルの魅力が高めるということ、さらに、公募によりまして、協賛企業からご支援をいただきながら無料入園を実施することによりまして、札幌観光の魅力の一つとしていきたいと考えております。

また、先ほどもご説明しました正月三が日の無料入園も、今後も継続いたしまして、市民に対して冬の動物園の魅力というものを伝えていきたいというふうに考えております。

最後に四つ目で、クロスメディア戦略による円山ブランドの効果的な情報発信です。本委員の皆様からご意見をいただいておりますが、FacebookやTwitterの活用、さらには、YouTubeや、駅地下の歩行空間の公共空間で動画を配信するなど、また、新聞やテレビとあわせて複合的に情報発信をする。

さらには、複数回の来園に特典がつく年間パスポートブックも発売をしていくことによりまして、新規客層やリピーターをどんどん取り込んでいく考えでございます。

これらの取り組みによりまして、年間来園者数100万人達成していきたいと考えております。

それから、2枚目の資料でございますけれども、これは、計画の概要版という意味合いで作成したものです。

今ご説明しました1枚目の資料と内容が重複する部分もございますので、お時間がありましたら、後ほどご覧いただければと思います。説明は割愛させていただきます。

3枚目の施設の整備スケジュールでございます。

まず、平成24年度でございますが、②番の遊具広場です。先ほど局長からお話しさせていただきましたが、現在、工事中ということで、動物の大きさや習性などを遊びながら体感できる木製の遊具でございます。今年の4月ぐらいには何とかオープンしたいと考えております。

それから、平成25年度でございますけれども、老朽化したモンキーハウスを改修いたします。モンキーハウスは、昭和59年に建設されたものでありまして、檻や扉が腐食しまして、近い将来、動物の脱走ということも考えられるということで、屋内外の施設を改修するということと、どうしても、一つの場所が狭いものですから、それを広げる、あるいは、動物を間近に観覧していただけるような改修をしたいと考えております。

それから、同じ平成25年度には、アフリカゾーンが着工となります。平成26年度末に竣工しまして、平成27年の夏ぐらいにオープンの予定です。

それから、平成26年度でございますが、これも、モンキーハウスと同様に、老朽化したサル山を改修したいと考えております。サル山は、昭和57年に建設されたものでして、モルタルでつくりました擬岩がはがれたりしており、かなり老朽化が進んでおります。猿や飼育員がモルタルでつくった山の中に転落する危険もございます。

そこで、モルタルのコンクリートの床をすべて撤去しまして、土を入れて緑化することにより、猿は当然過ごしやすくなるでしょうし、お客様にとってもおいを抑制することにもなります。さらには、観覧側に池を配置することで、水辺で遊ぶ様子も間近でご覧いただけたらと考えております。

それから、平成27年度でございますが、カンガルー館を改修したいと考えております。これは、動物とのふれあい体験の要望が非常に多いことから、カンガルー館の屋内スペースを広げまして、より多くの来園者にふれあいを楽しんでいただくために行う改修でございます。

また、第一駐車場のエレベーターの新設でございます。現在、ベビーカーや車いすで来園された場合には、長い距離のスロープを利用しなければならない状況でございます。そのため、新たにエレベーターを設置したいと考えております。

さらに、ホッキョクグマ館を建設したいと考えております。現行の世界の熊館につきましても、プール面積などで飼育施設の世界基準を満たしておらず、今のまま改修しても、海外との動物交換が難しい状況にありますので、円山動物園が所有している個体の年齢や国内の繁殖事情を考慮しまして、平成27年度に建設することを計画したものでございます。

ここまでは、今回の基本計画の期間でございますが、次の平成29年度から33年度の計画では、熱帯鳥類館や総合水鳥舎の改修も必要になってくるものと考えております。

以上が、改修スケジュールでございます。

この計画を、昨年11月末に市議会の総務委員会で説明いたしました。

委員から、具体的な集客アイデアとして、例えば、短期滞在の観光客などが効率的に園内を回るためのマップの作成という提案があったほか、冬の魅力絡みであります。海外の観光客の誘致の取り組みとして、計画の中にいろいろなところにちりばめられてはおりますけれども、項目立てをして取り組むべきではないかといった意見もございました。

また、議会での説明後、資料2-2になりますが、昨年12月12日から年明け1月11日までの31日間で、パブリックコメントを実施しました。

その結果、2番のところに記載しておりますが、2名から11件のご意見をいただいたところです。意見の概要と札幌市としての考え方につきましては、表に記載をしておりますけれども、簡単にご紹介いたします。

種の保存の必要性を示すような施設の整備や、裏面に行きまして、象導入の慎重な検討、職員の待遇やサービスの向上、動物に詳しい園長の起用、さらには駐車場の整備、あるいは、地下鉄円山公園駅からのわかりやすい案内表示、野生生物復元に向けた市民運動の啓発といったご意見がございました。

これらの意見につきましては、既に計画に盛り込まれているものもありますし、計画に盛り込むのがいいのかどうかという事柄も実際にはございます。

今後につきましては、先ほどの市議会の意見も踏まえて、一部、計画の修正を加え、改めて市議会に報告した後に、今月中にはパブリックコメントの結果とともに基本計画を公表する予定であります。

基本計画の関係の説明につきましては、以上でございます。

○金子委員長 どうもありがとうございました。

いろいろな資料がありますが、1枚目と2枚目がこの1枚目に盛り込まれていますので、まず、スケジュールの前までのところの改訂案の概要、人と動物と環境の絆をつくる動物園を目指してというところについてご意見をいただければと思います。

まず、文章が多くて大変ですけども、1枚目のところでいかがでしょうか。

○野村委員 右上の来園者増の主な取り組みの中のクロスメディア戦略のところですけども、わくわくアジアゾーンがオープンのときに出張でいらして、いろいろなものを配ったりされていたのは拝見しました。

これは、地下歩行空間にデジタルサイネージがありますね。ああいうところに映像を配信するというのを考えていらっしゃるのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 後ほども出てきますし、ここにも書いてありますが、ブログフリーペーパーの発行ということで、11月から第1、第3月曜日に発行しております。これは、円山動物園のホームページで飼育員のブログが紹介されておりますが、それをピックアップして、こんなものがあるということを広くお知らせしたいということで、例えば、セブン-イレブンとか、北洋銀行とか、ツタヤとか、区役所、区民センターなどにも配架して、自由にお取りいただける格好になっておりますが、もっと積極的に見ていただきたいということで、第1、第3月曜日に、札幌駅前の地下歩行空間に我々職員が出向きまして、ちょうど6面の画面がある北2条広場で、実際に通行される方に手渡しをしております。

○野村委員 手渡しされているのをニュースで拝見しました。

○事務局（見上円山動物園長） その後ろの方に画面がありますので、そこで、ブログの内容などを、ライブではありませんけれども、映像を流したりということはやっています。

○事務局（影山経営管理課長） 今後の展開としては、その動物園のPR動画を作成して、それを、シネアドという映画が始まる直前に15秒ぐらいのスポットで流したり、配布するときのバックに流したり、そのような地下歩行空間での配信を予定してございます。

○野村委員 私は、地下歩行空間をいつも通るのですけれども、市で管轄しているところにありますね。大通の方の入り口のところにもモニターがありますが、全然使っていないときも結構多いので、ああいうときに、もう少し簡単に、今日の動物園がこんなふうですよと流れていたら、ああ、ちょっと行ってみようかということになるのかなと思ったのです。まちづくり会社との関係で難しいのかもしれませんが、あそこは、すごい数の人が通るし、見ているので、そういうものがあればいいなといつも思っております。

○事務局（見上円山動物園長） まちづくり会社といろいろ話をして、何とかあいているときに流すことができるように……。

○野村委員 あいているときに、もったいないなとも思っております。

○事務局（見上円山動物園長） あれは、お金がかかるのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 場所によりますが、北2条広場はかかりません。

○事務局（見上円山動物園長） 北2条ではなくて、大通から入ってすぐのところですよ。

○事務局（影山経営管理課長） がかかりますね。

○野村委員 あそこはお金がかかるのですね。

あいているときだけ、うまく人の連携でできないのかなと思っていました。

○事務局（見上円山動物園長） 話がちょっと変わりますが、交通局の地下鉄のポスターは、行政でも基本的にお金がかかるのです。ただ、行政は2割減免です。ただ、あいているわけですから、あいているときだけでいいから出してもらえないだろうかということで、交通局とはいろいろ話しております。

○野村委員 そうだといいですね。

○金子委員長 ほかはいかがでしょうか。

○中山委員 すごく不勉強な質問かもしれませんが、入場無料で入園者数が増えて、収益は伸びるのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 基本的には、その期間で見れば、収入は減ることになります。

○中山委員 では、リピートをねらいとか、ご飯を食べたりということですね。

○事務局（見上円山動物園長） そこで魅力を感じていただいて、ああ、また来たいなと思っただけだと考えています。

○中山委員 では、基本的リピートをねらってということですね。

公募による企業協賛と書いてあるので、入園無料で、想定の方は協賛してもらえたから実現するものなのかと思ったのですが、そういうことではなくて、そういう場合もあれば、違うときもあるということですね。

○事務局（見上円山動物園長） ねらいとしては、リピーターを何とか確保したいということで、PRということで、無料入園にしたいと考えています。当然、収入は少しでも多い方がいいので、今回は、無料入園にすることによって、どういったお客さんがいらっしゃるのかというデータ集めを今年はやって、企業協賛によるというのは、来年度以降のスノーフェスティバルで考えていますが、例えば、企業の冠をつけるとか、園内で企業のいろいろなキャンペーンみたいなものを作ってもらうとか、その広告料のような形でお金を協賛としていただけないかと勝手に思っているのです。

そのために、今回、いろいろなデータを集めたいなと思っております。

ねらいとしては、リピーターです。

○野村委員 コンサドーレなども、白い恋人の日などがありますね。そういうときに協賛のものが配られるとか、そういうイメージですか。

○事務局（見上円山動物園長） そうです。日ハムの試合でも、冠ゲームがありますね。

○中山委員 無料期間に強制的に配るリピートねらいのフライヤーなり冊子なりを用意したらいいのかなとか、せめて半額チケットを配ってリピートさせるとか、すごく単純ですけども、せっかく無料で開放するなら、そのときに来た人は手にしなければいけないものが何かあったらいいのかなと思います。

○松浦委員 これを読んでいて、リピーターの調査をしたらいいなと思いました。

私も、一族で、無料だったよという感じで喜ぶます。ただ、その後に来るかというところに力を入れなければいけないと思います。無料以上に、リピーターを絶対に確保するという方法ですね。今、中山委員がおっしゃったように、100円引き券でも何でもいいと思います。

○事務局（影山経営管理課長） ちょうど、今、冬のキャンペーンをやっています、子どもさんが対象ですけれども、冬の12月から3月までに2回来た場合に、ダブルチャンスのプレゼントがあります。まず1回目は、福引でがらとその場で引けるというもので、賞が出ればグッズがもらえます。そして、ダブルチャンスがあつて、お申し込みをいただいたら、その中で抽せんでさらに商品が当たるというキャンペーンをやっているところで、これを無料期間にはぶつけているところではあるのです。

○事務局（見上円山動物園長） ダブルチャンスでは、夏に動物園裏側探検をしてもらおうということで、それをプレゼントの商品とします。そうすることによって、子どもさんだけで来られれば無料ですが、恐らく、親御さんも一緒について来られるだろうと思います。

○中山委員 私は、この前、札幌国際スキー場でイベントをしたのですが、そのときに、また来てねチケットというものを配っていました。あれは、3人のゴンドラの割引券なのです。そうすると、3人で行こうと思うではないですか。ああ、なるほどねと思って見ていました。単純な割引ではなくて、1人分で3人入れるよとすると、では、一緒に行こうよとなるのかなと思います。そういうものがあるといいですね。

○野村委員 今の冠の話で言うと、この間、ピーチ航空に乗って大阪まで行ったのですが、往復で1万5,000円ぐらいなのです。安いなと思って乗ったら、女性の方だけに、顔のパックの試供品を選んで手渡していくのです。きっと、そういうところから広告でお金をもらっているのだなと思ったのですが、協賛で確実にお子さんに何か渡るということも、その日に何か特典があれば文句は出ないと思ったのです。動物園で配ってもね。

それは、別に要らないよというものではなかったですからね。水で重たいということもないし、あら、帰りに試してみようかしらというものが配られるのは、割とうれしかったです。

○石川委員 以前、トヨタで、動物園内で何か所かまわって、何か書いて、トヨタのお店に行くと年間パスポートがいただけるというイベントがありましたね。そのときは、たまたま私はもう持っていたので余用はなさなかったのですが、子どもたちは楽しく何か所か回って、スタンプラリーという感じですね。あれは、逆にトヨタさんからお金をもらえるのでしょうか。

○事務局（影山経営管理課長） トヨペットさんのやっている事業ですね。あれは、クイズラリー形式になっていて、環境を学んでいただくようなクイズになっているものですから、動物園としても協力して設置をしております。クイズに答えて、その紙をトヨペットさんにお持ちいただくと、動物園のグッズが当たるという仕組みです。

全く関係なしで、何でもかんでも企業の商品を配るよというのも説明が難しいものから、環境に絡めたり、動物に絡めた形で一緒にやっているということを見せながらになると思います。

○事務局（見上円山動物園長） 今回の計画のクロスメディアのところでも、丸の三つ目に書かせていただいています。これも、リピーターを確保するための年間パスポートブックを新たにつくろうと思っています。子どもさんも、シールを集めたり、スタンプを集めるのが好きだと思うのですが、大人も、1回来たらシールをもらって張って行って、幾つか集めたらグッズがもらえたり、さらにもっと何回も来ていただく方には違うものをプレゼントしたり、そんなことを考えています。

○野村委員 私の友達は、このごろ、東京から札幌に来たら必ず動物園に来ているのですけれども、去年と写真が違いますね。年間パスポート写真はどのぐらいの頻度で変えているのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 基本的には年1回で、多くて2回です。

○野村委員 今回は、この前も言いましたけれども、モモンガを見たかったのに見られなかった人なので、この写真のパスポートのモモンガだけでもうれしいわと言って帰りました。ですから、動物の写真が時々変われば、先ほど2枚目は仕方がないとおっしゃったけれども、逆に、年間パスポートはいつも写真がいろいろ違いますといたら、そういうことがうれしい人もいるのかなと、友人の反応を見て思いました。

○事務局（影山経営管理課長） 実は、年間パスポートに期限がなく、初回に提示して初めて入ったときから有効1年間となっておりますので、実は2枚目はお得なのです。

○事務局（見上円山動物園長） 使った日から1年間有効なのです。

○野村委員 そこに何月何日と書いてから1年だから、白紙のものをもらえば、使った日からなるから、よかったですね。

○石川委員 でも、そこまで行って入らないというのは無理ですね。

○事務局（見上円山動物園長） 2枚でも3枚でももらって、それを使わないで、例えば、写真がいいということでコレクションにすると。

○野村委員 本当にモモンガの写真を喜んでいたので。こういう喜び方もあるのだと思いました。

○事務局（見上円山動物園長） 年間パスポートも紙ですから、比較的つくりやすいとは思うのです。例えば、これもまだまだ思いつきの段階ですが、正月三が日限定のその年の干支の年間パスポートをつくって、それを毎年集めたいと思ってもらえるようなものもいいなと考えています。

○野村委員 手軽にできるものならすごいいいですね。経費がかからずにできるならね。

○事務局（見上円山動物園長） 何枚もお持ちいただいて、今出ている年間パスポートが何枚もあると。

○野村委員 テレホンカードの退蔵益みたいになったらいいですね。

○松浦委員 ラッピングシャトルバスはもうあるのですか。

○事務局（見上円山動物園長） これは、ジェイ・アールバスなどのご協力をいただかなければならないです。

○事務局（二木みどり環境担当局長） 昔は、市営バス自体は、市営バスにデザインをして走っていた時代があるはずですが、それが、ジェイ・アールバスにかわってしまってから、ジェイ・アールバスはそこまでやってくれていないという状況です。

○松浦委員 市電でPRはできないのですか。ラッピングは、ホッキョクグマとかモモンガとかできないものでしょうか。あれは、相当お高いものだと思いますけれども、人気がすごいですね。

私は市電の沿線に住んでいるのですけれども、初音ミクの車両に若人が群がってしまっ
てね。みんなで写していますから、今の時期はまたすごいですよ。みんな時間を待って写
しています。

○野村委員 初音ミクは、しょうがないですね。ファンが多いですから。

○松浦委員 ですから、初音ミクも動物園とリンクしてもらいたいですね。ホッキョクグ
マをかぶった初音ミクとかね。

○中山委員 前にやっていましたね。

○事務局（見上円山動物園長） 一回、やったのです。一昨年ですね。

○中山委員 初音ミクがいろいろな動物の着ぐるみを着ているイラストを出しているの
です。

○松浦委員 そういうものが動画になったらどうですか。今、PR動画のこともお伺いし
たいと思ったのです。

私は、幼児教育ですから、いろいろな体操があるのです。そして、楽しく踊るのです。

この前、ちょっと歩行空間に行きましたら、飼育係の女性が二、三人いらっしゃって、
ちょっと踊っているしぐさが見えて、もっと派手にやればいいのにと私は思いました。あ
あいうとこで、もっと派手にね。そういうことに協力する学生はいないのでしょうか。

○金子委員長 いますよ。

○松浦委員 踊りたいとか、演劇をやりたい人とかね。

○野村委員 飼育員の方が踊っていらっしゃるのですか。

○松浦委員 ええ。かわいい飼育員の女の子がちょっとだけ踊って、もっと派手に踊らないのかなと。

○野村委員 マルヤマンと一緒にですか。

○松浦委員 そのときは、マルヤマンはいなかったのです。

ああいうしぐさの振りがもうできているのだったら、そういうものも動画にして配信するとかね。幼稚園、保育園は必ず利用しますね。そして、来たらどこかに必ず踊れる場所があるといっただけでも楽しいなと思いました。

映画の前のシネアドもすごく見ますね。あれはインパクトが強いですから、どういうものをつくるか、すごく期待します。

○金子委員長 ほかはいかがでしょうか。

○小山委員 個人的には、アニマルファミリー制度に非常に興味があります。平成24年度はもう少しで終わりますが、伸びというか、知名度はどうですか。

○事務局（影山経営管理課長） 正直に言うと、微減という感じです。ここでは見直しとなっているのですが、制度そのものが長く続けていくには難しい面もあって、余り積極的に展開できないような部分もあるものですから、今回は、ちょっと見直しをして、積極的に売り込んで2万人を目標にしたいということです。

○中山委員 特典というのは、何が違うのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 例えば、毎月、動物の個体の会員しか得られない情報をアニファミ通信という形で送ったり、特別なイベントにご招待をしたりなどです。

○中山委員 特別なイベントへ招待ということもあるのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 年2回やっています。お誕生日会と、もう一回あります。

○中山委員 その人の誕生日ですか。

○事務局（見上円山動物園長） その個体の誕生日です。

○事務局（影山経営管理課長） アニマルファミリーというのは、個体に着目しているものですから、オラウータンの弟路郎の誕生日のときにということです。

○小山委員 寄附文化の醸成というところにグルーピングしております。それもあってしょうけれども、どちらかというところ、リピーター対策というところにきちんと位置づけた方がいいと思いました。ちょっとホームページを見させていただいたら、一つの単価が高いことは高いですね。もう一つは、呼びかけるところに、動物園の優待券2枚とか、それだと個体とのつながりが表に出てこないと思います。その呼びかけのところは、リピーター対策を明確に打ち出した方が効果があると思っています。

○金子委員長 他はいかがでしょうか。

もしなければ、また最後のところで戻りたいと思います。

2枚目は、1枚目を絵にしたような形になっていますけれども、特になければ、次の施設改修スケジュールにいきたいと思います。

こちらはいかがでしょうか。

○松浦委員 この順序は、相当お考えになっての順序だと思いますが、エレベーターの設置を早めることはできませんか。

○事務局（見上円山動物園長） 駐車場建設の起債の償還がちょうど平成26年度で終わりますので、そのタイミングで新たな投資ということで、平成27年度に設定しています。

本当は、お客様サービスという観点からいくと、少しでも早い方がいいのでしょうかね。

○松浦委員 私は、これが一番だろうと思うのです。孫を連れてくると、前は全然感じなかったですが、これは結構こたえるわという感じですね。

○事務局（見上円山動物園長） ほかの施設と違って、一般会計ではなくて、特別会計で駐車場をやっているものですから、市債の償還が済んでからということで考えています。

○牧野委員 改修という点では、正門から入る入園者と西門から入る入園者というのはどのような状況ですか。

○事務局（佐々木経営係長） 6.5対3.5ぐらいの感じで、ふだんは西門の方が多いです。正月の三が日になると、それが全く逆転して、正門から上がってくるお客さんが多いです。

○牧野委員 ということは、地下鉄などを利用するということですね。

○事務局（佐々木経営係長） あとは、ゴールデンウィークのときも、下から上がってきて正門から入る方が多くなります。

○牧野委員 何が言いたいかという、西門は入り口らしい感じが無いのです。駐車場に入るための入り口という感覚を持っているお客さんが相当いらっしゃる、ちょっと戸惑っている人もいらっしゃるのです。

ですから、その改修にあわせて、たまたま券売機もずっと奥の方になってしまっています。正門はそこでぼんと売っているから、西門は中に入らなければ券売所がないですね。

ですから、改修のときに、西門の入り口の表現を考えてもらえると、ちょっと雰囲気が変わるのではないかと思います。あそこは、どうしても駐車場というイメージしかないですからね。

○事務局（見上円山動物園長） 円山のバスターミナルから⑮番ですか、西町2丁目行きで降りられるお客様は必ずあそこから入られますからね。

○牧野委員 通り過ぎて、真っすぐ上に行く人がいるのです。またバックして正門に向かう人もいます。

○野村委員 人が歩いていいのかなという雰囲気になっていますね。

○牧野委員 車だけが入る場所かなというイメージになっている部分がありますので、その辺を工夫していただければと思います。

我々は、毎年、西門の真ん前の三角地帯で花植えもやっています。今までは雑草だったのですが、今、シバザクラも植えまして、少しでも入り口というイメージにしようと我々町内会では取り組んでいます。

○金子委員長 そのほか、スケジュールに関していかがでしょうか。

○中山委員 「まるっば」は、冬は閉鎖ですか。

○事務局（見上円山動物園長） 冬は、一応閉鎖です。

○中山委員 滑り台などをつくったりはしないのですか。雪の遊具をそこでつくるということはないのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 遊具の上に雪があるので、危ないのです。

○牧野委員 話が戻って申し訳ないのですが、先ほどの入園者増のところで、森のボランティアの活動をしていたと思うのですけれども、あれもいまだに土・日なのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 夏場の水曜と土曜、日曜です。

○牧野委員 私も、立ち上がりのときからかかわらせてもらって、2年ほど遠のいているのですが、あの辺も、人数の制限もしていますし、土・日と水曜ですね。私も、最初のころは、森とは何だろうと思いつつも、昭和26年に開園して以来、手つかずの森ということで、考えてみれば、そういう場所はなかなかないわけですね。それも、在来種とか外来種とかいろいろありますので、我々が単純に見ていたものが、こういうふうに見せられると非常に参考になる部分はあるし、人工池もあってカエルがいたり、オニヤンマが飛んできたりと。冬場もやっていらっしゃるのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 冬の頻度は物すごく少ないです。

○牧野委員 あそこは、鳥が飛んで来たり、キツネとかリスの足跡が見られたりということで、我々は、そこに住んでいるから、リスやキツネは当たり前だけれども、初めて見ると、足跡だけでもすごく感激する部分があると思います。ですから、森のPRは必要かなと思います。ボランティアさんとの関係もあると思うのですけれどもね。

○事務局（見上円山動物園長） 先日、スノーシューみたいなものを履いて森の中を散策していただくようなイベントも開催しています。そこでは、エゾリスの足跡も見つけています。

○中山委員 「まるっば」は、イベントができるスペースがあるのですか。完全にただの公園ですか。

○事務局（影山経営管理課長） 大型の遊具を設置しまして、動物の大きさが感じられて、動物の動きを楽しめるような、公園にある大型遊具のようなイメージです。場所が限られているものから、それを敷地いっぱいに表示するようなイメージになります。

○中山委員 昔のキッズパークにはステージがありましたね。私は、ご当地キャラを取り扱っているのですが、あそこでステージイベントをしてということがあったのですが、やはり、動物園のステージイベントは、空き時間はみんな動物の中に入って遊ぶので、やっていな

い時間、間のインターバルも楽しんでもらえるすごくいいイベントに仕上がっていました。ただ、今はもうステージがないのであれば……。

○事務局（見上円山動物園長） あります。野外ステージがマップのちょうど上の方にあります。熱帯鳥類館の右側です。

○事務局（影山経営管理課長） ちょっと古いですけどもね。

○野村委員 相当古めかしいですね。

○松浦委員 ヒーローショーも見ましたよ。

○中山委員 でも、着ぐるみはNGですね。

○事務局（影山経営管理課長） いえ、大丈夫ですよ。

○中山委員 前に一回、動物がびっくりするからダメだと。

○事務局（影山経営管理課長） 動物と一緒にとか、動物の前にとというのは無理ですが、このステージだけであれば大丈夫です。去年も、ゴールデンウィークでマルヤマンショーなどをやっていますので、そこだけであれば、ぜひご出演いただきたいと思います。

○中山委員 わかりました。

○野村委員 単純に興味があるのですが、先ほど、カンガルー館の改修のときにふれあいとおっしゃったのですけれども、カンガルーとふれあえるということですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 直接さわるということではなくて、同じ空間に入れないかということです。今は、フェンス越しに動物を見えています。ある程度近いのですけれども、危なくないような形で、柵内にも入れる回廊もつくればいいなと思っています。

○野村委員 私は、カンガルーは怖いイメージがあります。大きいし、どうふれあうのだろうと思ったのです。

○石川委員 オーストラリアではワラビーのえさやりは結構しています。怖かったですけれども、ワラビーはちょっと小さいですね。

○事務局（柴田飼育展示課長） ワラビーは小さいです。そういった意味で、カンガルーは、自分が怖ければ遠くに離れていけるような空間を確保したいと考えております。

○高井副委員長 今回の基本計画も、次期基本計画も、すごく野心的で、札幌市の財政状況の中で億規模のものが毎年箱物についていくというのは、すごく例外的なものだと思うので、そのチャンスをちゃんと生かして、かつ、行政的にも、あるいは広報的にもわかりやすい形で説明するといいと思うのです。

例えば、基本計画の概要で、「ホッキョクグマの赤ちゃんが生まれる動物園」というキャッチフレーズは、すごくキャッチーでわかりやすいのですが、もし、できたら、この基本計画や次期基本計画に出てくる箱物の改修について、何か統一コンセプトをぽんと打ち出してはどうかと思います。特に、新聞や観光ガイドなどで取り上げやすいようなキーワードを使って表現するといいいのかなという気はします。

私が理解しているところで少しずつわかってきたのは、円山のおもしろいところは、アジアゾーン、アフリカゾーンに代表されるような、いわゆる博物館学の系譜からくる同種

の異地域に住んでいるものを固めるという展示ではなくて、同地域の多種類のものを展示するということですね。それを何と呼ぶのか知らないけれども、生息地域展示というか、環境別展示とか、環境別総合展示とか、何かキーワードをつくって、その先駆的な例をやるのだみたいにぶち上げると、改修について、単なる箱物ではなく、それを実現するためにこのパーツが一つずつできてくるという形になって、行政的にも通りがいいし、旭山のときは何とか展示と言いましたね。旭山モデルに対して円山モデルはこれなのだという一言で言えるものをできたら工夫すると思います。

後で修正してもいいですが、そう思いました。

○金子委員長 今、高井副委員長からのお話の中で、博物館というお話も出ていました。実際に、札幌市は、今、自然史系の博物館はないです。構想が十何年前に一回できて、それ以来、動いていませんね。博物館というのは、構想的には少し出ているのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 建設構想はまだありまして、活動は博物館活動センターさんでやっていますけれども、具体的な施設の整備計画というところまではまだありません。

私どもも、その博物館の部分を担当ということで、講演会にしても何にしても、活動は進めていきたいと思っていますし、それから、高井副委員長のおっしゃった意味で言えば、ゾーニングをしていきたいのです。例えば、アジア、アフリカ、北海道産動物ということで、最終的に、ちょっと飛び地になっているので、100%固めることはできないのですが、考え方としては、地球を伝えるゾーニングという形でやりたいと思うのです。

○金子委員長 いいと思うのです。札幌市の博物館構想の中にも、藻岩山とか、札幌市から何とか発信するとか、北の自然史何とか構想というすごくいいものがつくられていました。もし、自然史博物館自体の構想がまだうまくいかないのであれば、逆に、そういうものも取り込んだ形で、動物園の中のゾーニングをするような博物館的な使い方というか、見せ方もあるのかなと思っていたのです。

今、この売りとしては、高井副委員長からお話があったホッキョクグマの赤ちゃんが生まれる動物園ということが一つのキャッチフレーズですか。

○事務局（見上円山動物園長） そうです。

○金子委員長 ここの2枚目のところには、「人と人とのコミュニケーションの拠点」とか、「人と動物と環境の絆をつくる動物園」とか、いわゆるキャッチフレーズ的なものがぼろぼろと出ているのですが、これだという決められたものはあるのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 基本構想自体の基本理念は、「人と動物と環境の絆をつくる動物園」ということで、平成19年からずっと生きていますので、最終的にはすべての事業がこれに結びつく形になります。

○事務局（影山経営管理課長） ただ、これは動物園の運営の理念だと思うのですがけれども、高井副委員長が言われた施設整備ということについては、近年は、生息環境展示というものをテーマにして、アジアゾーンもリーフレットなどではそのように説明をしていま

す。動物たちの生息環境を可能な限り再現することによって、動物たちが本来の生き生きとした動きを見せるというのが最近の施設のコンセプトになっていますので、これは、今後も同じ考えでやらせていただきたいと思います。とっております。

○金子委員長 どこかモデルになるような動物園はあるのですか。世界のどこでもいいですし、日本でもいいのですけれども、今目指しているのはこういうタイプの動物園というものは何かあるのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 生息環境展示が一番進んでいるのは、やはりアメリカの動物園です。ただ、ある程度広いところで展示をするものですから、見やすさという点では、かなり見にくいというところもあるので、いい部分を取り込んで、円山にふさわしい形で、よく見ていただけるし、動物も生息環境としては快適であるという場所をつくろうと思っています。

○石川委員 ひょっとして、サファリパーク的なものになってしまうという感じですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） そうですね。広ければそうなりますけれども、そこまでの広さはないので……。

○事務局（見上円山動物園長） それだけにすると、結局、いつも木の陰にいて、どこにいるのかわからないということになります。やはり、生息環境展示ではありますけれども、より間近に動物たちを見ることができるところですね。

○野村委員 生息環境展示は、なかなか難しい言葉ですね。

○小山委員 ホノルルの動物園も、理念と展示がマッチングしているとは思わないけれども、理念だけはあちこちに書かれているから、そういうものなのかなと。そういう強引なアピールも成果が上がるのかもしれませんがね。

○野村委員 今、生息環境展示というのは、園の中のどこかにあるのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 生息環境展示という文言は掲げていないと思います。

○高井副委員長 国内では、円山が先進的なのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） いいえ、例えば、横浜のズーラシアなどはそのような形をとっていますし、どこの動物園も、改築に従って取り入れております。大阪の天王寺動物園もそうです。

○野村委員 言い続けていると、なれてくるのだと思います。旭山の行動展示も、やはり言われ続けているから一般市民でも知っているわけですね。だから、常にメディアで言われ続けると、今は覚えるのが大変な生息環境展示という言葉も覚えるのかもしれないですね。それを押し進めていくとしたらですね。

○金子委員長 でも、ちょっと長いですね。

○石川委員 四つぐらいにしてほしいです。

○野村委員 行動展示は覚えやすいですね。

○石川委員 行動展示はかなり浸透しました。

○野村委員 しかし、旭山の前までは、聞いたこともなかった言葉ですね。

○金子委員長 もし、アイデアがあれば、ぜひ出していただいて、動物園の方にお伝えいただければと思います。

○野村委員 逆に、省略できないのであれば、生息環境展示という難しい言葉を一回覚えてしまったら覚えてしまうので、やり続けてもいいと思います。

○金子委員長 ズーラシアなどは、生息環境展示ということで、かなり売り出しているのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） そういう言葉を掲げてはいないと思います。

○金子委員長 分類すると、こっちの方ですよという位置づけですね。

○事務局（柴田飼育展示課長） はい。

旭山も、行動展示だけではなくて、例えば、オオカミの施設にしても、岩や土を使ったりということで、どの動物園も新しい要素を取り入れているのですけれども、特にそれに着目してということですね。

○野村委員 私の中で、つながってしまっているのです。

○牧野委員 その言葉自体で、躍動感を覚えるのです。行動展示という言葉自体が、その動物の行動が見られる、本能が見られるというふうに集約されているような感じがします。そういうふう認識しているのではないかと思います。動物の本当の生態がダイナミックに見られる、躍動感を感じられるという言葉になっていると思うのです。それが、今、お客さんに受けているのではないかなという気がしますね。

○中山委員 展示という言葉は絶対なのですか。

○事務局（影山経営管理課長） そんなことはないと思います。

○中山委員 そもそも、展示と言われたら、ちょっとだけ違和感があります。理由は説明できないのですけれども、物みたいに思ってしまうというか、ほかの言い方があったら新しくてもおもしろくなるのに、全然思い浮かばないです。

○野村委員 本当ですね。新しい言葉があったらいいですね。

○金子委員長 今、平成28年度までの計画が完了すると、かなりの部分で生息環境展示になるのですか。それとも、まだまだ古いというか、従来型のものが残ってしまうという感じですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） そういうことにはなると思います。

○金子委員長 8割以上は平成28年度までに青写真の完成に近づくのか、あるいは、最後の熱帯鳥類館とか総合水鳥舎というのは……。

○事務局（柴田飼育展示課長） 鳥のケージをどうしても使わざるを得ないということで、また、モンキーハウスも改修いたしますけれども、衛生面も考えて、すべて屋内まで土を入れることまではできがたいところがあります。そういう意味では限界はありますが、要素は少しずつ入れていきます。

○事務局（見上円山動物園長） このスケジュールではぼいところに行くのかなと思います。猛禽舎などは、いわゆる従来型です。それ以外は、大体はほぼ近いものにはなると思います。

○金子委員長 全国的にも、旭山は行動展示だ、動物の行動を見るのなら上野に行くより旭山だというイメージがあるではないですか。ですから、生息環境を見るなら全国でも円山だというぐらいまでいける感じなのではないでしょうか。

○事務局（見上円山動物園長） 今回の基本計画と次期の基本計画で、何とかそういう状況になるかと思います。

○高井副委員長 金子委員長がおっしゃったように、前の統計を見ると、新しい建物ができると、その月にちょっと増えて、それからまた落ちるとということが繰り返されてきたと思うのです。それだと、もう切りがないと思うのです。

3億円とか5億円を投じて、ちょっと増えて、ちょっと減るみたいなことをやるのではなくて、それが総合的にこんな意味を持っているのだというものを打ち出すと、その落ちを減らせるのではないかと思うのです。

ですから、全体のコンセプトの転換の一部なのだとすることをぼんと出すとおもしろいのかなと思います。何がいいのかわからないけれども、その言葉は得意な方にやってもらうにしても、例えば、言いたいことがゾーン別だったらゾーン別展示でもいいし、アジアいきいき展示でもいいし、札幌でアフリカというものでもいいし、何でもいいけれども、全体のコンセプトがわかると、建物の話だけではなくて、すごいことが起きているみたいに思ってもらえるのではないかと思います。

○野村委員 そうですね。すごくいい理念で向かっていると。それが全部100%完成しなくても、その理念を求めてこれだけやっている。まして、エコなことも、今日拝見したようなことも、すごくいいことをやっているということが知られていないから、きっと伝え方なのでしょうね。もったいないですね。

○金子委員長 今年、アジアゾーンができたというのは、ある意味で、スタートというか、初年度だと思うのです。今、ホッキョクグマの赤ちゃんが生まれたり、遊具広場ができたりすると、今年は100万人ということがあるかもしれませんが、そのままいくと来年はまた下がってしまうとかね。

○野村委員 でも、前よりも、また来たい動物園に確実になっていると思うのです。最初は、双子が見たくて来た人も、双子を見たら、あら、ほかの展示もすごくよくなっているのねという人はいっぱいいると思うのです。

ですから、高井副委員長がおっしゃったように、新しいものができてわっと上がることはあるかもしれませんが、少なくとも落ち率は少なく、確実に底辺は上がっているのではないかと思いますし、上がれるのではないかと思います。自分が何回か来た経験でも、また違う人が来たから連れていこう、例えば、私でいうと、外から人が来たときに来るのです。

この間も、小さい子が来たので、ちょうどアジアゾーンができたばかりのときに来たのですが、本当に喜んで帰りました。あんなに間近でトラを見られて、小さい子もそこから動かないぐらいの感じでした。

だから、新しい園舎が確実にリピーターを増やす役割を果たしているのではないかと、アジアゾーンを見て思っているのです。

○石川委員 レッサーパンダも、たまたま、その時間にあそこにずっといて、ぐるっと回っているのです。でも、あの時間は何もアナウンスがなかったです。えさやり体験ではないので、どこにも書いていなかったと思うのですが、あれはすごいショータイムだと思うので、ぜひ、何かに載せて、その時間は絶対に行こうと行って、空き時間はほかを見るというふうにしたら、みんなあそこに集まるのではないかと思います。

○牧野委員 あとは、土・日の天候も非常に左右すると思います。そういう部分で、今度の新しい館は、雨が降ろうが、雪が降ろうが、見ようと思えば見られる環境なので、そんなところが増えてくると、来園者の数も変わってくると思います。今までのように、雨に当たりっ放し、雪に当たりっ放しでは、とてもではないけれども、寒過ぎて行かないとなります。今度は、そういう施設になっているので、そういった部分である程度期待はできるのではないのでしょうか。

○中山委員 生息環境展示というのは、行動展示と同列の言葉ではなくて、どの動物園も目指している理念ですね。

○事務局（柴田飼育展示課長） そうです。

○中山委員 なので、ここが完成したから生息環境展示の動物園になりましたよと声高に言う言葉ではないということですね。どの動物園も目指しているということですね。では、高井副委員長が言うように、ここだけのコンセプトが何かあった方がいいと思います。

○高井副委員長 ちょっとずれるかもしれないけれども、アニマルファミリーの寄附文化の話とつなげて言うと、今までのアニマルファミリーは、種別のスターをつくってということですが、生息環境展示みたいな形だと、例えば、アジアゾーンにファンとか、アフリカゾーンにファンとか、南米アマゾンゾーンにファンみたいなものを形成して、そこにアジア輸出企業とか、アフリカ観光旅行代理店とか、土産物屋さんとか、研究施設とか、大使館とか、そういうものをぶら下げて、場合によってはデパートの何とか展とも連携していくというビジネスモデルはあり得ますか。種ではなくて、ゾーンでやるということです。

ゾーンでやると、ライオンに利害を持つ企業とか民間の人はそんなにいないと思うのですけれども、ゾーンで利害を持つ人は結構いまして、イベントとかで連合したいという人が結構いると思うので、それは一つの方法としてあるのかなという気はします。

○金子委員長 たまたま、今回は旅行社が名前をつけていますが、例えば、わくわくアジアゾーンのわくわくという名前は、わくわくホリデーという旅行社のネーミングライツなのです。

例えば、アジアゾーンだったら、マレーシア観光協会とか、そういうところとタイアップして、そこに行った人たちを、その旅行社がどうかというのはわからないですけども、実際に海外まで見に行くようなところまで結びつけて、動物園を核にして世界中を見られるような仕掛けづくりもあると思うのです。それだったら、ビジネスモデルとしても非常に成り立つのかなという気がします。

アフリカだったら、ケニア大使館とかね。大使館だったらお金を出してはくれないかもしれないですけどもね。そのように、いろいろと夢が広がるような感じかと思います。

それでは、議論が尽きないところもありますが、スケジュールまではよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金子委員長 それでは、意見募集の結果ということで、残念ながら、2人からしか意見がなくて、11件の意見だったということです。これは、パブリックコメントとしては、もう締め切ってしまっているということで、ご紹介というか、ご報告という形になりますか。

○事務局（見上円山動物園長） そうですね。こういう形で公表しますと。

○金子委員長 これに対して、札幌市の考え方として、これはどうなのかという話ではないのですね。

○事務局（見上円山動物園長） いえ、札幌市の考え方は、これから出ていくことになります。

○金子委員長 では、意見の概要として、こういう意見をいただいて、市としてはこういう回答をする予定ですが、いかがでしょうかという形でよろしいですか。

○事務局（見上円山動物園長） はい。

○金子委員長 それでは、意見の方は、出していただいたものですからいいですが、札幌市の考え方というところで、何かご意見等がありましたらお願いしたいと思います。

○野村委員 これに関連して、質問の2番にある象の導入については、今のところ何かあるのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 一応の目標としては、平成26年度に象の導入の可否を決定するという事です。今、それに向けて、先進施設の調査とか、原産国の輸出の可能性とか、それを今探っています。

○石川委員 導入する方向で動いているということですか。

○事務局（見上円山動物園長） もし導入するのであればどのような形で導入するのかということを調査しています。平成24年度は、市民の皆さんの象に関する理解を深めるということと、市民の皆さんのご意見を幅広く聞こうということが平成24年度のメインだったのです。子どもさんにもお聞きしましたし、無作為に住民基本台帳から抽出して1万人の方にアンケート調査をやりましたけれども、ほぼ半分ぐらいの方にはご賛同いただいている状況です。

4分の1の方は反対という感じですが、やはり何といても、象舎を建てるのに、単純に試算しただけですけれども、20億円かかるということなので、それが高いということです。これは、賛成の方にもそういうふうにおっしゃっている方がいます。そんなにかけるぐらいだったら、もっと福祉を充実すべきだという考えで、象導入は反対という方もいらっしゃいます。

いずれにしても、施設で、20億円かかるものをどのくらい圧縮できるのか、さらには、市単独でやるのではなくて、広く一般の方にも応援いただいて寄附いただくとか、そういったものも含めてどれだけ負担を減らすことができるか、その辺もある程度お示しして、やるとしたらこういう形でというふうに公表することになると思います。

○野村委員　どんなふうにかかれたのか、質問の仕方でも賛成とか反対はすごく左右されると思うのです。単純に象がいた方がいいと思いますかと一般に質問したら、それはいいよりはいた方がいいとみんな言うに決まっています。

○事務局（見上円山動物園長）　第1回目の市民1万人アンケートをやったときには、単純に幾らかかるということをお示ししないで、象の施設についてはご説明した上でいかがでしょうかという聞き方をしたときには、賛成、反対、どちらとも言えないというのがそれぞれ同数という形になったのです。

○高井副委員長　どうでもいいのですね。

○事務局（見上円山動物園長）　今回は、繁殖を目的とするために象を複数頭で飼育しなければいけないので、それなりの施設が必要です。そのために、その施設をつくるには約20億円かかります。そして、複数頭を飼育していくためには年間で2,000万円ぐらいの光熱水費やえさ代がかかりますという条件をお示した上で、いかがですかという聞き方をしているのです。その結果、「賛成、反対どちらとも言えない」が4割以上で最も多く「賛成」「反対」がほぼ同数でした。

○石川委員　広報さっぽろに載ってましたね。20億円、2,000万円と言うと、やはり引いてしまいますよね。

○事務局（見上円山動物園長）　単純に3,000平米ぐらいの屋内の施設が必要だろうということで、今、アジアゾーンの単価に単純に3,000平米を掛けて出したら20億円ということですが、省エネなどの工夫もまだまだできる余地はあると思います。

○中山委員　寄附で象舎を建てた実績のある動物園はあるのですか。

○事務局（見上円山動物園長）　釧路は、キリンを導入するということで、市民の方が募金活動をやって、7割ぐらいが……。

○中山委員　幾らでできるのだったらやるという目標があって、みんなでつくろう象舎みたいな感じでやれたら、みんな、僕が建てた象舎ですという感じになりますよね。

○野村委員　私がちょっと嫌だなと思ったのは、青年会議所などが旗振り役みたいなことをするという事です。できれば、本当に円山動物園に象が必要なのかということ、動物園の現状を知っている人でちゃんと話し合っただけで決めるべきが主で、それで、かなりの情

報を綿密に伝えた上で、どうですかという質問にならなければ、何となく盛り上がってしまっていて、その旗はもうおろせないみたいな格好になって象が導入されるのは嫌だなど、私が勘違いしているかもしれませんが、そう思ったのです。

私のイメージだと、前に象がいたときの印象が余りよくなかったのです。あれだけ大きな動物なので、環境は相当難しいと思っています。どこの動物園に行ってもいいとは思っていないので、意見はいろいろだと思うのですが、そっちの動きとして旗を振る人が出てきて、署名活動もしていましたね。ああいう動きは、本当にちゃんと現状を理解しているのだろうかという疑問をすごく持ってしまったのです。

ですから、その情報を早目にしっかり発信して、でも20億円あったら、もっと理念に沿って、こんなこともできる、あんなこともできるということも示さなければ、単純に20億円といっても自分のお金ではないですからね。やはり、比較対象が必要だと思います。○事務局（二木みどり環境担当局長） おっしゃるとおりだと思うのです。20億円をかけてどんな展示になるのか。象が生息する環境として、昔とは違う良好な環境を提供できるのですというあたりを説明しないと納得していただけないような気がします。

今、参考にしようとしているのは、北欧系での飼育展示の方法です。非常に広いスペースの中で多頭飼いをしていて、象の家族を見てもらうという展示の仕方なのです。ですから、象の非常に伸び伸びした様子を見てもらえるので、そういうことが説明できないと合意を得るのは難しいのかなという気がします。

その辺の説明がまだ足りないのです。それは、こういう飼育の方法が選択できますねというあたりまで我々が行き着かないとだめなのです。飼育員の養成から始まって、いろいろ手を尽くさなければいけないので、そこを、来年かけて、再度調査をしながらこの計画をつくりますというふうに示した上で進めなければいけないと思っています。市民意識は大体わかりました。ある程度の賛同は得られるなというところまではきたので、あとは、もう一步踏み出せるためには、そういった細々したところの計画を立てて示した上でゴーサインを出せるようにしたいと思っています。

○野村委員 やはり、動物園としては、飼育員の方たちや、皆さんの感じでは、象がいたらいいなという感じなのですか。皆さんいろいろなのでしょうけれどもね。

○事務局（柴田飼育展示課長） 飼育の歴史も考えますし、大型動物という特殊な面や進化の面でメッセージ性がすごく高いと考えていますので、きちんと飼えるのであればというところがスタートではないかと思います。

○中山委員 象が来た後、動物園としてはこんなにあるということもあるのですか。動物の交換とか、繁殖とか、そういう予定があるのでしょうか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 象の繁殖は、なかなか簡単には進んでいないのがこれまでの日本の動物園の歴史ですので、ぜひ、そういう環境をつくって繁殖を……。

○石川委員 テレビで、以前、日本の動物園の3人の象使いの番組を見たのですがけれども、三人三様で、本当にぴったり寄り添う飼育員と、全く突き放す飼育員と、もう一人という

感じなのです。私は何も知識がなかったのですけれども、象を飼育するというか、象と一緒に動物園で暮らすのは本当に大変なことなのだなと思いました。一般の私たちでもそう思いましたし、なおかつ、今回は複数頭の導入ということだと、子どもたちともいつも話しているのですが、大変だよねと。お金の問題だけではなくて、研修する場所がないですよ。だから、大変なのかなという気がします。

○松浦委員 講演会に行って、象にふれないで足の爪を切ったり、砂漠のような状況をつくって、象がわさわさ走っていたり、映像を見せてもらって、象が欲しいと簡単に言えないというのが実感でしたし、外人の飼育係の人が来ていたのですが、象の飼育員は日本では何人も死んでいるという状況や大変さを聞いたりして、私は、象がいなくても魅力的な円山動物園でいいかなと思います。

○石川委員 十分いけるかなという気はします。

○松浦委員 象は、もう少し暖かい方がうれしいと言うのではないかと思います。あれを見たおかげで変わりました。実は、何が何でも象に来てほしいと思っているし、本当はそういう運動もしたいと思っていたけれども、これは難しいなと。見せられて初めて考えることがありますので、もし、円山でやるとしたら、こういう飼育の方法で、象が自分で足を出して、爪を切ってみたいな感じの飼育ができる飼育員と、あのすごい鉄条網の施設が要るのだということをはっきり出して、イメージを固めてから問うということであればだめではないでしょうか。

○高井副委員長 今、五つの議題のうちの議題2の話の付加的なところをやっていると思うのですが、議題2の基本計画の中のパブリックコメントに対する回答については賛成と、恐らく、それをここで確認しなければいけないと思うのです。

今、象の話をしていますが、2のところの回答で、パブリックコメントの方は反対とあっていて、動物園としての見解は、ちょっと慎重に具体的なことをいろいろ詰めてからもう一回考えますとおっしゃっています。私は、こういう言い方がいいと思います。

つまり、パブリックコメントは、せっかくやったのだから、リスペクトしなければいけません。しかし、二つのコメントで全市民の意見が代表されるとは必ずしも言えません。ですから、これを踏まえてまた検討するということになると思います。

6と7はむしろ逆のことを言っていて、園長はディズニーランドのような企業者精神を持った人がやるべきだ、接待もやるべきだとあって、7では、園長は動物に詳しい人がやるべきだとあって、矛盾しているところもありますので、そこを踏まえた上でまた考えるという姿勢で、このコメントでいいと私は思います。

○中山委員 パブコメの2件というのは寂しいですよ。これは、もっと欲しいのか、一つでも来ればいいのかというさじかげんがわからないのですが、余りにも知られなさ過ぎではないかと思うのです。

パブリックコメントという言葉自体は、原発問題もパブリックコメントすごく募集していて、すごく浸透している言葉だと思うので、それこそ、クロスメディアをもっと活用し

て、もっと来ると思いますよ。存在を知らないだろうし、市のホームページからパブリックコメントにたどり着くまでが結構長いですが、Facebookだと、ここをクリックしたらすぐにパブリックコメントを書けるところに行けるように、本当に欲しい人たちはそういった展開をしています。もし、もっとたくさん欲しいというコンセプトなのであれば、余りに知られなさ過ぎではないかと思います。

○事務局（見上円山動物園長） PRは、ホームページだけではなくて、マスコミにも取り上げていただいたりということをやったつもりですが、それでもPR不足だったのかもしれない。ただ、この基本計画に対してということではないですが、言える機会というか、その場は園内にもいろいろ用意しております。ご意見箱のようなものを設置して、いつでもご意見をくださいという形をとっています。そういう意味では、実際に基本計画を見ていただいて、自分が思っていることが盛り込まれているなど思っていたのかもしれませんし、その辺はちょっとわかりません。確かに、PRは足りなかったのかもしれません。

○中山委員 意識が向いていない人も目にしてしまうところに置けたら一番いいですね。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、議題2の基本計画については、おおむね了解しました。ただ、皆さんからいろいろなアイデアをいただきましたので、この実施に当たっては、それを反映するような形でお願いしたいということと、あとは、高井副委員長がまとめていただきましたが、パブリックコメントについては、基本的に回答はこういう形でよろしいのではないかとということと、中山委員からいただいたように、余りにも少な過ぎるので、パブリックコメントの募集に当たっては、もう少し積極的に集めるような工夫をしてはいかがかというあたりでよろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○金子委員長 それでは、議題2を終了して、スノーフェスティバルについてお願いいたします。

○事務局（影山経営管理課長） それでは、私から説明いたします。

資料3の円山動物園スノーフェスティバルの広報についてを1枚おめくりいただいて、円山動物園スノーフェスティバルのチラシをご覧いただきたいと思います。

先ほど、短い時間ではありましたが、ご案内させていただきました。今年のスノーフェスティバルは7回目の開催となりますが、今回は、北国ならではの昔からの雪遊びを体験していただくということで、いろいろなアトラクションを用意しております。

今、さっぽろ雪まつりが開催されておりますが、大通会場で巨大な雪像を見ていただいて、つどーむ会場ではアトラクションを楽しんでいただく場となっておりますので、円山動物園では、それとは少し差別化するような形で、昔からの北海道の雪遊びを楽しんでいただきたいと考えております。

あわせて、スノーフェスティバルで遊んでいただくのも来園のきっかけになりますけれども、一番は、やはり冬の動物もゆっくり見ていただきたいということでございまして、今回は、円山動物園開園以来初めて冬季に夜間延長を行うという内容になってございます。

チラシの右上にあります、ファンタスティックナイトZOOということで、2月10日の開園時間を夜8時まで延長する予定としております。

夜間時は、西門付近に、先ほどご覧いただきました万華鏡を外で雪山に投影する予定です。それから、かまくらの付近にもスノーキャンドルを設置しまして、タイトルのとおり、ファンタスティックな演出をしたいと考えております。

それから、雪遊びは、チラシの下からいきますと、これは日程が限定されますが、馬ソリを楽しめたり、かまくらの中で暖かい飲み物を飲んだり、雪だるまづくりが体験できたり、小さなミニゲレンデがありましたが、ミニスキーやそりで楽しんだり、氷の滑り台を楽しんだりというアトラクションを用意しております。

また、スノーフェスティバル開催に当たりまして、チラシの左下にありますけれども、雪まつり期間に、雪まつりの各会場を結びますシャトルバスを大通から運行しております。こちらは、ジェイ・アール北海道バスで運行していただいております。

こういったイベント内容ですけれども、どんな広報をしたのかということをご説明したいと思います。

1枚、ページをお戻りいただきたいと思います。

さまざまな場面でいろいろなツールを使ってPRしてまいりましたので、こちらの資料は、使用したツールを中心にまとめております。

1点目は、ポスター掲出ということで、今ご覧いただきましたようなチラシを中心に、動物園内、地下鉄駅、札幌駅地下歩行空間などに掲出しております。

それから、今申しあげましたジェイ・アール北海道バスとのコラボ企画で、シャトルバスを運行していただいた関係もありまして、札幌近郊を走るジェイ・アール北海道バスの路線バス400台にもスノーフェスティバルの広告を無料で掲出していただいております。

それから、お気づきになった方がいらっしゃるかもしれませんが、動物園の正門の壁に入園料無料の看板を掲示しております。

2点目は、動物園ホームページへの掲載です。

3点目のプレスリリースについては、通常よりもちょっと早目にしております。早目にリリースすることで、テレビなどで企画を組んでいろいろな特集をしていただいております。きのうも、HTBテレビの「イチオシ！」で生中継が入りましたし、HBCの「今日ドキッ！」でも放送されております。それから、これまで北海道新聞にも2回ほど掲載されております。まだ期間中ですので、明日にもさらにプレスリリースしまして、一層、メディアに露出を図りたいと思っております。

4点目は、チラシの作成・配布で、今ご覧いただきましたチラシのほか、別の種類のチラシも作成しまして、来園者、イベント参加者、市内のホテルにも配布する形で営業しております。

5点目の動物園だよりですが、先ほどご覧いただきましたチラシは動物園だよりの臨時号という内容になっております。スノーフェスティバル特別号ということで発行しまして、市内の小学校、幼稚園の全児童に配布したほか、市内のホテル、観光案内所、それから、商工会議所のボランティアにも配布をお願いしたところです。

このほか、広報さっぽろ1月号への掲載、地下歩行空間のイベント時のPRなどもあわせて行ったところです。

以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、スノーフェスティバルについて何かございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 それでは、続きまして、前会議における各委員からの意見等について、説明をお願いいたします。

○事務局(見上円山動物園長) 全部で9項目ございます。

まず一つ目、項目としては、企業誘致、誘客についてということで、企業誘致や誘客を行わないのかというご意見でございます。

これは、前々回の会議でいただいたご意見ですけれども、前回の会議では、営業用のパンフレットを作成中ですということでご説明したかと思いますが、年度内で営業用のパンフレット、さらに、これまでの企業連携の内容をホームページも含めて年度内に完成させて、平成25年度当初からの営業活動につなげていきたいと考えております。

二つ目は、アジアゾーンの効果ということで、集客効果、満足度向上を測ることは可能かということでございます。先ほど、来園者の状況をご説明しましたが、アジアゾーンのオープン後、昨年と比較しますと8割増しという状況です。

ただ、現在、屋外放飼場などがまだオープンしていないということもありまして、アジアゾーンの魅力がすべて出ている状態ではないと思います。したがって、春のグランドオープン後のゴールデンウィーク以降に、対前年という形で比較しながら、さらには、お客様の満足度につきましても、アンケートなどを実施しまして、より詳細なデータを集めていきたいと考えております。

それから、ボランティアの関係でございますが、イベントのPR時に活用してはどうかということでございます。現在も、イベントのPR時にさまざまな年代の方にボランティアをしていただいているところであります。スノーフェスティバルにつきましても、学生さんにボランティアをしていただいておりますけれども、今後も積極的に活用させていただきたいと考えております。

それから、写真スポットの関係で、有料だという表示方法は工夫が必要ではないかということですが、実際に園路から見える撮影待ちスペースになりますが、看板を二つ設置しまして、シャッターサービスは無料で、写真については有料ということがわかるように、見やすく表示をしたところではあります。

それから、広報の関係で、Twitter、Facebook については、アジアゾーンがオープンする前までに開始してはどうかというご意見でございました。これにつきましては、アジアゾーンオープン前に開始することはできませんでした。現在も、引き続き検討中という状況です。下から3行目の中ほどに書いておられますが、円山動物園という公の機関が実際にTwitterやFacebookなどで、動物園に対しての問い合わせなどがあったときに責任を持って答えていくためには、やはり一定のルールが必要だと考えておまして、現在、そのルールづくりを検討しているところです。

これにつきましては、アジアゾーンのオープンには間に合いませんでしたが、平成25年度のできるだけ早い時期に実施できるように準備を進めていきたいと思っております。

ただ、1行目にも書いてありまして、先ほどもお話しさせていただきましたけれども、新規客層の開拓ということで、11月からブログペーパーを毎月第1・第3月曜日に発行をしており、駅前地下歩行空間でも職員が出向いて行って直接手配りをしている状況でございます。

裏に行きますけれども、エゾリスの関係でございまして。見えにくいので、展示の仕方を工夫してはどうかというご意見でございました。確かに、現在、ドサンコの森で展示しておりますエゾリスは1頭だけでございます。ただ、バックヤードで飼育している個体がありますので、そういった個体の展示訓練を行いながら、繁殖期が終わる春以降に展示数を増やしていきたいと考えております。

それから、7番のイメージ戦略でございまして。

例えば、動物園をイメージすることができるようなステッカーを地下鉄に貼ることはできないかというご意見でございましたが、地下鉄は、料金の関係等もございまして、なかなか難しい部分はあると思いますが、我々としては、自動車に貼りつける動物園のロゴのようなステッカーを作成しまして、市民や企業に配付して、車にぺたぺた張っていただけないかと考えております。当然、公用車についても同じようにやろうと思っておりますけれども、ということで円山動物園をイメージしていただけるようなことにつながっていただければいいのかなと思っております。

それから、8番目のPRですが、PRが市内に限定されているように見えてしまうというご意見です。現在も、観光文化局で、東京事務所と連携しまして、道外のイベントなどのときに動物園のパンフレットを配布するようなこともやっております。市内に限らず、市外に向けても積極的なPRを今後も行っていきたいと考えております。

それから、特に中国の観光客につきましては、今回のスノーフェスティバルに向けて、札幌市の北京事務所を通じてTwitterで情報発信を行ったところではあります。

また、東南アジア圏につきましては、旅行会社と連携して、向こうの関係者を動物園に招待したところでありまして、今後も、こういった取り組みを拡大していきたいと考えております。

最後に、PRチラシということで、冬の動物園に焦点を当てたPRチラシをつくってはどうかということです。これは、先ほど、スノーフェスティバルに向けてのPRでもご説明しましたが、動物園だよりとか、臨時号みたいなものとか、そういったものをつくって、いろいろなところに配布しております。また、商工会議所の観光ボランティアさんにもお願いいたしまして、街頭での配布も行ったところでありまして。

前回の会議で出していただきました意見に対する考え方につきましては、以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

前回の各委員からの意見等については、今ご説明いただいたとおりですけれども、これにつきまして何かございますでしょうか。

私から一つ、広報のTwitterとかFacebookに関してですが、めどはいつぐらいになりますか。

○事務局（影山経営管理課長） 平成25年度の早期と考えておりますが、正直に言って、今は手が回らない状況です。人手がなくて、そこに人を割けない状況ですので、先ほど園長から申し上げましたけれども、質問などにタイムリーに即時性を持って対応していくということがFacebookの信頼性を高めていくことにつながるとは思います。今、その体制が組めないものですから、どうしたらそれを続けていけるかということを考えているところで、今すぐには難しい状況です。

○金子委員長 一番の問題は、何か反応があったときに動物園側で出せないということですね。

○事務局（見上円山動物園長） 個人としての回答ということではなくて、中には動物園として正式な回答をしなければならないものもあると思うのです。

○中山委員 そんなに返事をしなくてもいいと思います。発信ツールで全然いいと思いますよ。

○事務局（影山経営管理課長） 市民の方から質問などをいただいたら、部長まで確認をして答えるというのが札幌市の広報ルールなのです。

○野村委員 私もTwitterなどはやっていないのですが、これは発信させていただくだけです。質問はホームページからというふうにしたらいいと思います。発信するだけという格好で使えますか。

○中山委員 そのように使えますし、ごくまれに、急に返信するでもいいのがTwitterだと私は思っています。

NHKのTwitterを見たことはありますか。もう信じられないぐらい、めちゃくちゃなのです。NHKは国営放送なのにこんなものでいいのかということで話題になっています。

一方的ですし、ほとんど返事もないですし、有名な方ほど、そんなに返事はしない、公的機関ほどしない。

○野村委員 逆に、マルヤマンがつぶやくとか、不特定多数にして、つぶやきたいことだけつぶやいて、質問には僕は答えられませんがいいと思います。もし使うのであればね。

○中山委員 この間も、円山動物園のニシキヘビの飼育員の話が超話題になっていましたね。あれも、発信していればもっと話題になったでしょうし、すごくもったいないと思っています。

○事務局（見上円山動物園長） 平成25年度から、広報関係の体制を強化しようと思っています。人員増ということになりますが、そんなことも平成25年度から予定しております。

○中山委員 お返事だけがネックなのであれば、そんなに必要ないかなと思いました。

○高井副委員長 よくわからないのですが、例えば、ブログの内容を張りつけたようなものだとまずいのですか。

○中山委員 多分、文字数の問題があると思います。でも、ブログを更新しましたというTwitterでいいと思います。

○野村委員 今日もお天気がよくてお客様がいっぱいですとか、短くていいのですね。

○中山委員 むしろ、短くしか書けません。Facebookはいっぱい書けます。

どなたか個人でやってみたりしているのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 職員個人では結構やっています。

○野村委員 それで試してもらうのはどうですか。

○事務局（影山経営管理課長） 公式でやることの難しさを職員もわかっているので、個人レベルではそういうことをやっています。

○金子委員長 うちの大学も、最初は大学の広報担当がすごく渋ったというか、すぐには難しいなど言っていたのですが、職員が勝手に大学の名前でFacebookに立ち上げてしまって、これは放っておけないという話になって、大学が、お試しですとって最初はやっていたのです。そうしたら、何とかうまくいきそうだということで、最近、公式Facebookページみたいな形で書いたのです。それまでは、本当に試行版みたいな形でやっていたのです。

○野村委員 仮でもいいですよ。

○金子委員長 さっきのお話のように、マルヤマンの何とかみたいな形はいいと思います。円山動物園が公式でやっていますよとなると、市のいろいろな規則にもひっかかってしまうのかもしれないけれども、有志の人たちで集まって円山動物園情報を発信しますみたいなものでもいいのかなという気がします。

○中山委員 キャラクターのTwitterはめちゃくちゃ流行していますね。括弧して非公式と書いてあるのです。ファンの一人がやっている形ですけども、すごく詳しいから、その人の情報で十分とみんなが思っている場合もあります。

○野村委員 きっと、一番うるさく言うのは市役所の中で、外側の人は言わないと思います。問題は市役所内です。

○事務局（影山経営管理課長） 我々は、そのルールを守らないわけにはいかないですから、そこはちょっと……。

○事務局（二木みどり環境担当局長） 実は、まんべくんが問題のあるつぶやきをしてしまったので、それが全部に波及してしまったというところがあるのです。

○中山委員 まんべくんは民間でしたからね。民間がやってしまったことですが、責任を負ったのは長万部町だったから、それが問題なのですね。

○金子委員長 例えば、市民動物園会議で Facebook ページを持って、動物園情報を出していくのはどうですか。

○中山委員 かかわっているとしたら、ひっかかるのですか。

○牧野委員 かかわっているのですから、いろいろ問題があると思います。やっぱり、行政としては、どこから何が飛んでくるかわからないですからね。とんでもないことが飛んでくる場合がありますから、それは慎重にやるべきだと思います。

○事務局（影山経営管理課長） アニマルファミリーの方とか常連さんが自分でブログを立ち上げたり、Twitter をやっていたりするので、そういう方々の力はお借りしたいと思っています。アジアゾーンのオープンのときにも、内覧会にお呼びして情報発信してもらったり、そういうことで情報発信するやり方もあると思います。

○中山委員 そこにはストップはかからないのですね。

○事務局（影山経営管理課長） 私どもが関与していませんので、ストップはかけません。

○中山委員 例えば、私が、今日帰って、ふんから肥料を作る施設を見てきたよ、すごくきれいだった、手で直接触ったぐらいのさらさらの肥料ができていましたということ言うのはオーケーなのですね。

○事務局（影山経営管理課長） オーケーです。

○野村委員 つぶやいてくれるサポーターを集める方が早いということですね。

○事務局（影山経営管理課長） そうです。それがすごく簡単なやり方なのです。

○中山委員 さっきの広報もそうですが、円山動物園に全然注目していない人の目に触れるすばらしい機会だと思うので、活用していけたらいいなとすごく思います。

○金子委員長 人の問題も含めて、平成25年度の……。

○事務局（見上円山動物園長） できるだけ早期に実施したいと思います。

○中山委員 Twitter サポーターみたいなものを募集したらいいですね。

○金子委員長 その辺の仕掛けは少しあってもいいような気がします。

○中山委員 このハッシュタグでつぶやいてくれたら何かいいことがあると。

○松浦委員 無料券もらえとかね。

○金子委員長 職員の方だけでこれを全部運営するのは逆に大変だと思います。

○松浦委員 いろいろな分野でそうですよ。職員だけでこれを楽しく維持するのは難しい。

○野村委員 やっている人は、いつも見えていますからね。そんなことはできないから、そういうのが得意な人がやってね。

○中山委員 クレームをゼロにするのは不可能だと思います。役所だと、それが難しいのですよね。

○事務局（影山経営管理課長） 別に、クレームを恐れているわけではないですが……。

○中山委員 ちゃんと対応しなければいけませんからね。

○金子委員長 わかりました。また、継続ということで……。

○野村委員 1点、これとは関係ないのですが、地下道のところで写真展をやっています。私はいつも通るのですが、ちょっと残念だと思うのは、すごくいい写真があるのに、細か過ぎて、通り過ぎるだけという感じなのです。ああと見ても、シロクマはかわいいとか、アライグマはいいなというものの方が、よっぽど多くの人目に触れたのではないかと私は思ったのです。一つ一つの写真は、プロの方ですからすばらしいのですが、余りにも細かく分割されていて、あれを立てて見ていく人はほとんどいないです。むしろ、1人1動物だったら、わーっと全部見たと思うのです。それが残念だと思いました。

○事務局（見上円山動物園長） できれば、協賛していただける企業頼みのところもあるのですけれども、毎年やっていこうと思っているのです。今回は、第1回目ということであんな形になりましたが、今いただいたご意見なども踏まえて、来年以降はちょっと変えていきたいと思います。

○野村委員 すごくいい取り組みだと思います。

○中山委員 大版がないということですか。

○野村委員 みんな小さいのです。

○牧野委員 マルヤマクラスのところの地下道ですね。うちの家内も言っていましたが、少しべたっとした感じになっているので、もう少しまとめるとか、そういう空間を少しつくる形の方が見やすいのになと言っていました。

○事務局（見上円山動物園長） A4判ですね。

○野村委員 A4判もありましたか。もっと小さいイメージなのです。

○中山委員 広いからでしょうね。

○野村委員 立ちどまって見る気がしないのです。

○中山委員 でも、大判は高いですよね。

○事務局（影山経営管理課長） 協賛企業の関係で、もともとA3判で1,000枚ぐらいの予定だったのですが、A4判で500枚になってしまったのです。地域の方にご理解いただいたりというふうになれば、協賛をいただけるのかなとは思っています。

○中山委員 あそこは、私の知り合いの写真家がいっぱい出していたので、そういう視点で楽しめました。クリエイター目線からだ、あそこにあの人がこんな写真を出しているということで訪れる、そういうコンセプトなのだろうなと思ったのです。動物園そのもののPRなのか、どっちなのか、あやふやだったわけですね。

○野村委員 立ちどまって見る人はほとんどいないのです。

○中山委員 どちらかというと、アート寄りのコンセプトですね。

○事務局（影山経営管理課長） そうです。今、おっしゃられたように、二つの要素があります。一つは動物園のPRですが、ちょっとアート性が強くて、市民文化の発信拠点という形の方が強いかなと思います。今回のアートアニュアルというのは、一つは写真展と、もう一つは動物園に来ていただいてフォトコンテストもやったのです。そちらも、先日、審査会をしたのですが、164名の方から大体四、五百点の写真をお寄せいただいたところですよ。

今回審査しましたので、入選作品を2月16日から張り出しますけれども、それだと、直接園に来て写真を撮って、また動物園に見に来てということで、来園者増の効果があるのかなと思います。

○中山委員 札幌のアーティストと動物園がコラボしているのは、個人的にはすごくすてきだと思ったのですが、いかんせん、アーティストは自分で余り宣伝しないので、協賛企業がそこまでの予算を割いてくれて大々的にやってくれと、とてもうれしいですね。

○野村委員 あれは、歩いていて、協賛企業のイメージが全くなかったのですが、どこかについていましたか。

○事務局（見上円山動物園長） 小さく出ているのですが、前にちょっとお話ししたかもしれないんですが、すべて道路法の網がかかっているものですから、企業のロゴなどを大きく表示すると、道路占用料がかかるのです。そういう関係もあって、小さくなったのです。

○中山委員 そうしたら、協賛したくなくなってしまうですね。そのルールを変えてほしいですね。

○事務局（影山経営管理課長） 仮に企業名が大きく出ても、難しいですね。今、本当に不景気なのかなと思いますけれども、お金を集めるのもなかなか大変です。

○野村委員 でも、写真を焼くくらいなら、もうちょっと……。

○中山委員 A4判を超えた瞬間に高くなります。いきなり上がりますからね。

○事務局（影山経営管理課長） 写真のプリントは、富士フィルムさんに現物支給していただいています。

○野村委員 それなら、なおさら大きくてもできるような気がします。

○事務局（影山経営管理課長） 富士フィルムさんしては、あのサイズで、あの枚数が限界なのです。

○金子委員長 では、よろしいでしょうか。

それでは、新着動物について、ご報告をお願いいたします。

○事務局（柴田飼育展示課長） 新着・出産の状況報告です。

10月31日にマレーバクの雌が入っております。アジアゾーンのオープンを直前に右目の上をぶつけてけがをしまして、今、ようやく治りまして、展示を開始しております。主に3時以降の展示をしております。

コツメカワウソの雄のサンがサンピアザから入っております。

1 1 月には、アジアアロワナという魚が入りまして、アジアゾーンで展示中でございます。

1 2 月 7 日に、アムールトラのタツオが帯広動物園から戻っております。

1 2 月 8 日に、ホッキョクグマのララが出産し、2 頭が生育中でございます。今日で生育 6 1 日目なので、まだ産室から出てきておりませんが、2 月末ぐらいには産室からちょっと出てくる写真が撮れるかと思えます。公開は、3 月下旬を目指したいと思っております。

1 2 月 1 6 日に、アオホソオオトカゲという非常にきれいなトカゲですが、四つの卵を産みまして、その中の 1 頭が孵化しました。国内の動物園では初めてになると思えます。

1 2 月 3 0 日にホッキョクグマのキャンディが出産をしてくれましたが、今回は残念でございました。

1 月にムツオビアルマジロというものと、オニオオハシを入れておりまして、今、検疫中でございますが、2 月中には熱帯鳥類館に展示したいと思っております。

それから、転出、死亡です。

1 1 月にゼニガタアザラシの雄が死亡しております。1 2 月には、スローロリスの雌、それから、ビルマニシキヘビのアルビノの雄が死亡しています。

それから、1 月に入りまして、コツメカワウソの雌が死亡しております。

それから、1 月 8 日に、シンリンオオカミの雌のキナコが死亡しております。雌のキナコは、2 0 1 0 年と 2 0 1 1 年と出産してくれて、子どもたちと雄と一緒にいましたけれども、だんだん子どもたちの力が強くなってきたので、キナコだけ分けて飼うようにいたしました。群れで生きる動物なので、一緒に姿が見えるような形で過ごしてもらっていました。時々、ペアとなる雄と一緒にしてはいたけれども、動物同士の接触は避けようということで分けまして、この日に、キナコが足をフェンスの外側に出したところに雄が襲いかかる形になりまして、足にけがをして出血死となりました。

1 4 日には、タンチョウのタエ子が死亡しています。

1 5 日には、ゴマフアザラシの雌が死亡しております。

1 月 2 5 日に、北京動物園に向けてチンパンジーの雄が繁殖目的で転出しておりまして、ちょうど成田の検疫所で検疫中ではありますが、2 月の末には北京の動物園に移動できる予定になっております。

○金子委員長 ありがとうございます。

これについてはよろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 予定しております議事の最後のその他です。

その他につきましては、何かございますでしょうか。

○事務局（見上円山動物園長） 次回の予定ですが、平成24年度の来園者数の状況、さらには24年度決算の状況、あるいは25年度の主要事業などについてご説明したいと思いますので、5月下旬ぐらいを予定しております。

詳しい日程につきましては、改めてご連絡させていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○金子委員長 アジアゾーンのグランドオープンは連休ぐらいでしたか。

○事務局（見上円山動物園長） ゴールデンウィークに合わせてという感じになります。

○金子委員長 その日程は、まだ決まっていないのですか。

○事務局（見上円山動物園長） ゴールデンウィークの春まつり、4月27日……。

○金子委員長 何月何日にセレモニーをやるというわけではなくて、一応、グランドオープンを広報するのですか。

○事務局（見上円山動物園長） します。

○金子委員長 特に何かあるというわけではないのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 前に、高井副委員長からもお話しいただきましたけれども、グランドオープンにあわせて、アジアウィークと題していろいろなイベントもやりたいと思っておりますので、その辺の広報はいろいろ展開していきたいと思っています。

○金子委員長 そのあたりの連絡は皆さんにさせていただけるような形になりますか。

○事務局（影山経営管理課長） 春まつりの概要を事前にお送りさせていただきたいと思っています。

○金子委員長 ぜひ、よろしくお願いいたします。

それでは、議事はこれで終了になりますけれども、何かございますでしょうか。

○野村委員 個人的なことかもしれませんが、もしかしたら動物園にもかかわりがあるかもしれないと思って、メールで情報を流させていただいて、ありがとうございました。その後、動物園のお知らせをメールでいただけるようになって、すごくありがたいと思っております。これからもよろしくお願いいたします。

○中山委員 だから来るようになったのですね。なるほど。

○金子委員長 どうもありがとうございます。

4. 閉 会

○事務局（見上円山動物園長） 今日は、どうもお疲れさまでございました。

本日いただきましたご意見は、十分検討させていただいて、しっかり反映させていきたいと思っておりますので、またどうぞよろしくお願いいたします。

どうもありがとうございました。

以 上